

令和4年度

試験名： 推薦入試

【 人間学群 教育学類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文	<p data-bbox="432 398 600 427"><u>I 出題意図</u></p> <p data-bbox="432 432 1437 636">本問題は、2014年に、OECDのウェブサイトに掲載された Kautz, T., Heckman, J. J., Diris, R., Weel, B. T. and Borghans, L. (2014) <i>Fostering and Measuring Skills: Improving Cognitive and Non-Cognitive Skills to Promote Lifetime Success</i> の一部を抜粋したものである。(Retrieved from https://www.oecd.org/education/cei/Fostering-and-Measuring-Skills-Improving-Cognitive-and-Non-Cognitive-Skills-to-Promote-Lifetime-Success.pdf)</p> <p data-bbox="432 640 1437 779">育成すべき能力をめぐって、非認知スキルの重要性が今日指摘されている。問題文は非認知スキルの重要性について世界的に示唆を与えた影響力のあるものである。そこでは、非認知スキルの意味、重要性、今後の課題について明快に整理されている。</p> <p data-bbox="432 784 1437 1032">問題文は比較的平易な英文であり、本学類生に求められる英文読解力を受験生が有しているかどうかを判断するためにも適切なテキストである。その内容を正確に読み取ると同時に、自らの高校生活での学習経験とも適宜対比しつつ、育成すべき能力や学校教育などの在り方について考えることができるかを問い、受験生の学力の程度を確認することが出題の意図である。問4は、問題文における指摘について具体的な例を挙げて考えることを求め、それを通して、受験生の論理展開力と文章表現力をみるものである。</p> <p data-bbox="432 1111 660 1140"><u>II 解答例</u></p> <p data-bbox="432 1178 485 1207">問1</p> <p data-bbox="448 1211 560 1240">[解答例]</p> <div data-bbox="440 1245 1434 1476" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p data-bbox="456 1249 1426 1464">達成度テストは、広く普及しているにもかかわらず、あまり理解されておらず、その作成者もその限界を十分に認識していた。達成度テストは、教室の内外で役立つスキルを測定するために、「一般知識」という新しい概念を測定する方法として、20世紀半ばに開発された。開発者たちは、自分たちが開発した鉛筆と紙でできたテストが、労働市場や教育、そして人生のさまざまな場面での成功を予測するものだと考えていた。</p></div> <p data-bbox="432 1697 491 1727">問2</p> <p data-bbox="448 1731 564 1760">[解答例]</p> <div data-bbox="440 1765 1434 2013" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p data-bbox="456 1769 1426 1946">非認知スキルとは、忍耐力(やり抜く力)、誠実性、自制心、信頼感、注意力、自尊心と自己効力感、逆境への回復力、経験への開放性、共感性、謙虚さ、多様な意見への寛容性、社会に生産的に関与する能力など、労働市場、学校、社会全体で評価される能力である。これらのスキルは、状況によらず安定しており、有意義な人生の成果を予測できるという点で、重要である。</p></div>

問 3

[解答例]

共通点は、教育達成度、労働市場での成功、健康、犯罪性を予測する上で、非認知スキルが IQ に匹敵する点である。また、IQ と非認知スキルはどちらも達成度テストのスコアを予測する点も共通している。非認知スキルの特徴は、達成度テストのスコアを予測する効果以上の結果を予測する点、及びあらゆる文化、宗教、社会において普遍的に評価されている点である。

問 4

・当該箇所と段落の本文の記述は以下の通りである。

・まず、下線部 (エ) は、本文の主旨である「非認知スキルの意味、その重要性、能力概念の在り方」をふまえて理解される必要がある。

・課題として、本文の内容を踏まえて、現在の学校教育では、ペーパー試験で測定できる認知能力に焦点が当てられ過ぎており、人間の能力を限定的に捉え、その結果、人間の豊かさを十分に伸ばしていないことなどを指摘することが考えられる。

・解決策として、授業、教師、家庭教育、生涯学習などの観点を設定し、論理的かつ具体的な提案ができるかどうか問われる。

・解決策を提案する場合も、「スキルは、生まれつきの特性ではなく、育てることができるため、指導によって変化すること。」「認知的スキルと非認知的スキルの両方が、人生を成功させるための重要な要素であること。」「スキルのレベルが高ければ、社会的包摂が促進され、経済的・社会的流動性、経済的生産性、ウェルビーイングが高まること。」「スキルを形成する上で、家族や社会環境が果たす役割が大きいこと。」などの本文の内容をうまく活用できていれば評価する。